



国臨協関信

HPアドレス <http://kanshinshibu.org>

平成26年 1 月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発行者 浅里 功
編集委員 金子 司・小池容子・平原 学
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443



謹賀 新年

平成26年
元旦

撮影：国立国際医療研究センター病院
宮崎 澄夫

新年の御挨拶



国立病院臨床検査技師協会関東信越支部
支部長 浅里 功

新年明けましておめでとうございます。
会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年は2020年オリンピック東京開催の決定に日本中が沸き、富士山が世界文化遺産に登録されました。「一富士二鷹三茄子」は昔からのことわざで、夢に見るものの中でめでたいものの順番を指す言葉です。特にお正月の初夢でこれを見ると大変縁起が良いと云われてきましたが、皆様はどのような初夢をご覧になりましたか。

さて、現実には目を向けると今年は診療報酬改定の年、また、公的年金の支給開始年齢引き上げに伴う「雇用と年金の接続のための再任用」も施行され、ともに動向が注目されます。

また、昨年の関信支部の活動状況ですが、第41回関信支部学会は参加者365名、一般演題50演題と活気溢れる学会とな

りました。研修会は、第1回「これからの人材育成について思うこと」、第2回「患者対応と医療メディエーションについて」、第3回「うつ病の理解と周囲の接し方」、第4回「認定資格取得について」を開催いたしました。休日や悪天候にも関わらず毎回多数のご参加をいただきました。

組織関係では、東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会のご協力で埼玉地区会、東京地区会（仮称）、東京・山梨地区会（仮称）の3地区会が新設されました。次年度から関信支部は10地区会となりますが、地区会を人・施設交流のツールとして活用いただき、地区会務活動が若手技師の人材育成に繋がれることを期待しています。

さて、今年は関信支部にとって大きなイベント、第68回国立病院総合医学会が11月14日～15日に横浜にて開催されます。

担当支部として国臨協本部、技師長協議会、本部・ブロック専門職と連携し鋭意取り組む所存ですが、皆様には多数の演題発表とともに港「ヨコハマ」の地に多数ご参集くださいますよう関信支部役員一同心よりお待ちしております。



NHO関東信越ブロック事務所統括部医療課
臨床検査専門職 上 條 敏 夫

新年明けましておめでとうございます。
国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は皆様から多大なご支援とご協力を賜り、心から感謝を申し上げますとともに、日頃から単身赴任や遠距離通勤を余儀なくされている皆様には、ご苦勞をおかけしていること

に対しまして、心より労いの意を表したいと思います。

昨年、人事関連では、主任技師等任用候補者選考が3回目を終え、昇任制度が形として定着してまいりました。また、定年退職に関して雇用と年金の接続のための再任用制度が新たに始まり、人事管理の制度が年々大きく変わってきております。

さらに、スキルアップ関連においては、認定輸血検査技師

における資格認定機関研修が行われており、今後の認定資格取得者の確保や技師育成を充実させていくためにも積極的なチャレンジと職場体制のバックアップが重要になってきます。

さて、今年は国立病院機構全体の方向性に注目が集まりますが、我々一人ひとりが、医療従事者としてこれから組織の中でどのような貢献ができるかを考え、自ら行動していくことが特に必要であると思います。臨床検査部門における転換期として、また更なる質向上のためにもスキルアップ・医療連携・人材育成など各種の取り組みについて、積極的に力を注いでいかなくてはならないと考えます。

今後の臨床検査部門の発展のため、また次世代に引き継ぐため、気持ちを新たに、国臨協ならびに各協議会が共に協力し合い、力を合わせてチームワークで多くの壁を乗り越えていきたいと思います。

本年も引き続き、皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



茨城地区会会長……………藤 澤 紀 良



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

昨年後半は2020年東京オリンピック開催の決定、プロ野球では東北楽天が日本一と日本中が大いに盛り上がりしました。オリンピック誘致では、日本の結束力の高さと日本人のこころ「誠心・清心」がI O Cから評価されました。これはプレゼンだけの評価ではなく、東日本大震災の時の「絆」の強さ、他人を思いやる心（人間性）、おもてなしの精神が諸外国から高い評価を受けたものです。近年、薄れかけているとも言われている「古くさい日本人のこころ」が、この先ずっと引き継がれていくことを願っております。

さて、私は茨城地区会に今回で3度目の籍をおくことになりました。茨城地区会は発足当時から研修会・総会への会員出席率が高く、昨年の総会に出て、この結束力の強さは伝統的だなと感じたとともに、近年の人事異動の凄まじさを改めて感じました。

茨城地区会は3施設しかありませんので、技師長・副技師長がしっかり連携をとり、若手・中堅技師の人材育成に当たっていくことが重要だと思っています。そしてこれまで諸先輩方が築き上げてきました国立病院の良いところを後輩に引き継いでいくことが大切であると考えています。

今年の国立病院総合医学会は横浜で開催されます。関信が一丸となって盛り上げていくことが成功に繋がりますので、当地区会としても可能な限りの協力をして参ります。最後になりますが、皆様にとってこの一年が素晴らしい年になることを祈って、新年の挨拶とさせていただきます。

栃木地区会会長……………稲 葉 孝



謹んで新年のおよろびを申し上げます。

遠い昔のことですが、栃木地区は5施設あり今は2施設に減少し地区会としての運用が厳しい状況です。しかし地道な活動を継続しコミュニケーションを取りながら将来を見据えた組織の和を大切に運用しています。昨年は支部学会において学術奨励賞の受賞、地区会コーナーのポスター提示で優秀賞をいただく成績を残しました。会員の努力、役員の努力が報われた結果が形として現れたと思います。

巷では髪型や装飾品などの情報だけで、後ろから見ても前から見ても男性か女性かわからない若者に出会います。いわゆる「男（女）らしさ」から抜け出すことを意識したわけではないでしょうが、既成の枠に収まらない柔軟性を感じます。今までの価値観では通用しないことに出会えばそれらを捨てる決断力が必要なのだと思います。変革とか改革という大仰な言葉でなくても、既成概念を脱却する日々の試みは変化につながると思います。しかし、浜口直太「あたりまえだけどなかなかできない仕事のルール」の書籍の中で、「できません」と言っていると「できない理由」を人は探すようになります。「できない理由」を挙げだせば、当然のことですがモチベーションが下がり、何も生まれません。できない理由ではなく、できる理由を探すことが大切です。できるためにはどうすればいいかを考えてほしいとおもいます。何事も真剣に真面目に取り組むことが大事ですが、自分の可能性を、自分で閉ざすことを避けるには、楽天的であることも大切だとおもいます。

本年も関信支部の発展と会員の皆様にとって幸多き年でありますようにお祈りいたします。

群馬地区会会長……………長 田 裕 次



あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年は特に異常気象が目立った年で、夏には今までにない極端な天候でありました。西日本、東日本では夏の平均気温が上昇し、高知県四万十市では41.0℃の最高気温記録を更新しました。また、全国143地点で最高気温の高い記録を更新しました。降水量も東北、北陸地方で例年のない記録を更新し、全国4ヶ所で過去に経験したことのない豪雨に見舞われました。台風、竜巻の発生も多くあり、尊い命が残念なことに奪われました。地球温暖化やヒートアイランド現象の影響で今後も増加傾向にあり、今年の夏も心配されます。群馬地区会は山間部に位置する施設が多く、非常に環境の厳しいところですが、もうすでに山々は白一色となり、美しさをかもし出していますが、これから冬本番、寒さに負けず、頑張っていきたいと思います。

さて、群馬地区会は昨年の夏、会員の親睦を高めるために、前橋市にある赤城山麓の管理釣り場で溪流釣りをし、岩魚・山女魚・ニジマスと戯れ、BBQでお腹を満たし、晴天下のもとで一日を満喫しました。遅ればせながら12月に地区総会と関信支部共催で研修会も開催しました。新役員も選出されたばかりですが役員一同一致団結し、会員の親睦を高めながら群馬地区会の発展に貢献したいと考えてます。一昨年都道府県認知度ランキングで不名誉にも最下位を取ってしまい、いまだに低迷状態の続く群馬県ではありますが、国臨協関信支部群馬地区会はそんな淋しいことのないように活動していきたいと思っています。

最後になりますが、国臨協関信支部と各地区会の益々の発展を祈念して新年の挨拶といたします。

千葉地区会会長……………今 村 ち さ



新年明けましておめでとうございます。千葉地区会を代表して国臨協関信支部会員の皆様には佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は夏の記録的な猛暑や台風が秋になっても続々と発生し、大きな被害をもたらしたり異常気象でした。これも地球環境破壊が原因でしょうか、何かが変化しつつあるのかもしれない。一方、富士山が世界遺産に登録されたこと、長島茂雄、松井秀喜の国民栄誉賞受賞、なんと言っても2020年五輪開催地が東京に決定したことなど明るい話題も多くありました。

昨年の千葉地区会は5月に文化活動としてビール工場を見学後、隣接する会場で歓迎会を行い新会員との交流の場を持ちました。また7月には千葉医療センターにおいて第32回総会・研修会を開催いたしました。研修会では「今求められる院内コミュニケーション・対人スキルの向上」と題して本山史朗先生（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス）にお願いしました。医療の現場で必要とされるコミュニケーションをいかに上手く図るかは、立場の違う相手をよく理解し、自分を変えて対応することが大切で、それにより仕事も円滑に進めることができるという内容をわかりやすく講演いただきました。また第2回勉強会は11月に「安全な輸血を行うために」と題して前橋美智子先生（千葉県赤十字センター）に、また「輸血検査のポイント」として千葉医療センター臨床検査科認定輸血検査技師の長島恵子先生にご講演いただきました。

今年度の事業方針に則り、会員一人ひとりが臨床検査業務における知識や技術の修得のみならず、医療全般の情報交換ができ、共有化が図れるように関信支部と密接な連携をとり、橋渡しの地区会活動を目指して一同取り組んでいきます。

最後に関信支部の更なる発展と会員皆様のご活躍をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。

神奈川地区会会長 ……………樋 口 祐 子



新年明けましておめでとうございます。神奈川地区会を代表して、関信支部会員の皆様には、新春のお慶びを申し上げます。

昨年一番のニュースは2020年のオリンピック招致に成功した事でしょうか。前回までの反対意見は何処に行ったのでしょうか、日本中が喜びに沸いていました。若人には希望が夢が出来大変良い事です。でも一方では、あの震災から3年が経過しようとしています。福島原発事故の処理、終息はと考える時、福島県民を思う時、胸を締め付けられる思いに駆られるのは私だけでしょうか。

さて、当神奈川地区会の今年の活動の一端を紹介させて頂きます。6月には久しぶりにレクリエーションが計画され、28名の参加者のもと、横浜の生麦にありますキリンビールの工場見学と懇親会が行われました。

9月には関信学会の地区会コーナーで施設と神奈川県を紹介を致しました。

11月には地区会定期総会と学術講演が神奈川病院で開催され、その後懇親会が行われ会員の親睦を深めました。当初は10月26日を予定していましたが、台風27号28号の接近で被害が予想されたため急遽11月2日に変更しての開催となりました。

また、会報誌も2回発行し、新会員の自己紹介など相互の情報交換の場として地区会を盛り上げています。

今年の神奈川地区会は、関信支部学会地区会コーナーで優秀賞を狙って行きたいと思ひます。

最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して新年の挨拶といたします。

新潟地区会会長 ……………水 島 美津子



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には新春のお慶びを申し上げます。長野県岡谷市には時計メーカーに極小精密部品を供給する技術を持った企業が多く集まっていますが、岡谷にある町工場の社長が自らも癌と闘いながら3年の歳月をかけ、内視鏡から挿入して癌細胞を切り取る刃の長さ2mmという極小ハサミを造り挙げ、注目されています。県内でも新潟大学医学部と民間企

業との産学連携によるステントの開発や、新潟病院でのサイバーダイン社製介護用ロボット「HAL」の実証実験を実施するなど、医療の現場でも世界に誇る日本の高い製造技術を応用した、取り組みが行われています。患者さんの苦痛を和らげ負担を軽減したいという思いと情熱が原動力となって、医療の発展に貢献されています。臨床検査も確実な技術と知識、そして意欲を持って検査説明するなど、多方面での医療連携に参画することの重要性を感じています。新潟地区会では昨年11月にさいがた医療センターにおいて、第33回定期総会・研修会を開催しました。研修会では、新潟県赤十字血液センターの瀬下先生より「今後の輸血検査の展望」と題し、iPS細胞を使った再生医療や日赤のiPS細胞研究への協力事業についてご講演頂きました。また6月の地区交流会では初夏の風に吹かれ、弥彦神社参拝と健脚者？を募り弥彦山登山を行い、その後は温泉で汗を流し、海の幸を頂きながらの楽しい親睦会になりました。会報誌「朱鷺」は年3回発行し、人事異動挨拶、学会発表の演題紹介、新潟の旬の魚の紹介など、毎回嗜好を凝らした情報誌になっています。このような活動が、学会地区会ポスターの3年連続準優勝という、輝かしい業績につながっています。地区会員は少数ではありますが、個々の力を発揮し連携を深め、新潟から発信できればと願っています。最後に関信支部役員並びに皆様のさらなる発展とご健勝を祈念致し、新年の挨拶といたします。

長野地区会会長 ……………中 野 正 直



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には、新春のお慶びを申し上げます。長野地区会では、昨年6月に総会と第1回地区研修会を「アミノインデックスによるがんスクリーニング」のテーマで信州上田医療センターで、また、10月には国臨協関信支部共催で、「うつ病を知ろう」というテーマで2名の講師をお招きし、演題は「うつ病の理解と周囲の接し方」、「自分のうつ傾向を見

てみよう」で、大宮ソニックシティにて開催し多数の参加があり質疑も多く盛会だったと自負しています。さらに、12月には関信ブロック臨床検査専門職を招聘し、第2回地区研修会をまつもと医療センター松本病院にて行いました。

昨年も色々な出来事がありました。特に食品偽装は記憶に新しい事です。私達の検査報告には偽装はありませんが、より高度な知識を身につけ、ますます信頼を得るデータを提供したいものです。あるコラムに「人は体が弱ると心弱り、心が弱ると頭が弱る」という一文が載っていました。あたりまえの事かも知れませんが、患者さんの心を理解し、我々も心身ともに健康な年でありたいと思ひます。

本年の皆様のご活躍と明るく良い年でありますよう祈念いたします。

東京・埼玉・山梨地区技師長会会長 …中 島 哲



あけましておめでとうございます。皆様、健やかに新春をお迎えのことと存じます。東京・埼玉・山梨地区を代表しましてご挨拶申し上げます。

昨年を振り返ってみますと2020年夏季オリンピック・パラリンピックが圧倒的な大差で東京に決定いたしました。これはプレゼンの勝利で、『お・も・て・な・し』は、世界に通ずる言葉になったのではないのでしょうか。また、ドラマ半沢直樹の『倍返し』も話題になりました。

皆さんの中には、昨年は実りある年にならなかった人もいられるかと思ひます。めげずに、今年は『倍返し』のつもりで再挑戦してください。きっと良い事があつた。

さて、東京・埼玉・山梨地区会では、NHQ村山医療センターの内野臨床検査技師長が陣頭指揮を執り、「東京・埼玉・山梨地区会のあり方についてのWG」が立ち上がり、数回の会議が持たれ、大筋が決定されました。東京・埼玉・山梨地区会は会員数238名、14施設の大規模な地区会です。今後は地区会が3つに分かれ、それぞれが活動をしていきます。地区会区割りとし施設の割り振りは以下のとおりです。埼玉地区会がNHQ埼玉病院、NHQ西埼玉中央病院、NHQ東埼玉病院、国立障害者リハビリテーションセンター病院の4施設41名。東京地区会（仮称）がNHQ災害医療センター、NHQ東京病院、国立がん研究センター中央病院、国立精神・神経医療研究センター病院、国立療養所多磨全生園の5施設99名。東京・山梨地区会（仮称）がNHQ東京医療センター、NHQ村山医療センター、NHQ甲府病院、国立国際医療研究センター病院、国立成育医療研究センターの5施設98名となります。現在は平成26年度の活動開始に向け準備を進めているところです。今後は、地区会としての機能を果たしながら活発な交流ができればよいと感じています。

最後に、2014年の干支は「午」うま。「物事がうまいく」「幸運が駆け込んでくる」などといわれる縁起のいい動物です。うまに肖って良い1年であることを願っています。皆様のご健康とご活躍を祈念し挨拶と致します。



2014年 新年の抱負

NHO茨城東病院 …………… 小 池 勝 人



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

国立病院機構茨城東病院に採用となり、二年が経とうとしております。非常勤職員として採用されてから細菌検査に携わっております。当院採用時は、未経験分野に従事するのではないかと

いう不安と、新しい事にチャレンジできると期待がありましたが、幸運にも前施設で得た経験を活かす事ができる細菌検査に引き続き携わりました。当院は、呼吸器疾患を得意とするので、結核などの呼吸器疾患患者の検体が提出されます。患者年齢層は高齢者が多く、前施設では小児と周産期医療を中心としておりましたので、検体から検出される細菌の様変わりや抗酸菌の検出の多さに驚いておりました。一年目は、新しい環境での検査業務と、初めての当番業務など目の前の事をこなすことに精一杯でした。初めての当番で輸血検査を経験し苦労した事は、良い経験となりました。また、今まで経験できなかった一般検査業務を当番で経験し、勉強となりました。

二年目は、スキルアップと今まで従事してきた細菌検査の知識と技術の確認の為、緊急臨床検査士と二級臨床検査士の微生物学を受験しました。受験する際、受験科目に該当する基礎的な講習を受講し基礎を学びました。講習を受講し、基礎の大事さを感じました。今回、受験で勉強し再確認した知識や新しい知識を、日常検査に活かしていきたいと思えます。また、今後もスキルアップを目指し、他分野の認定資格取得も視野にいれて日々努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、本年もご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

NHO栃木医療センター…………… 福 澤 奏 恵



新年あけましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、昨年4月から栃木医療センターに新規採用となり、生理機能検査を担当しています。働き始めの頃は分からないことばかりで、自分の力のなさを思い知らされました。また、1ヶ月たった頃には、当直業務と採血業務にも携

わるようになり、生理機能検査以外にも覚えることが増え、3ヶ月経っても仕事に慣れた気がしませんでした。特に、当直業務では普段行っている業務とは全く違う検体検査が主なので、毎回当直にあたるたび不安でいっぱいでした。しかし、先輩方や上司の助けもあり、今では業務にも慣れつつあります。ただ、まだまだ知識・技術面で分からないことが多くあり、また生理機能検査の中でもまだ行っていない検査もたくさんありますので、さらに努力する必要があると痛切に感じております。

今年の目標は、研修や学会に積極的に参加し、さらなるスキルアップを目指したいと思えます。また、認定資格にも挑戦したいと思えます。特に、私はまだ検体検査の知識が少ないので、緊急検査士の資格を取得したいと思えます。

少しでも患者の皆様へ貢献できるように日々努力を忘れず頑張りたいと思えます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

NHO沼田病院 …………… 隠 岐 博 文



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年4月、沼田病院に主任として異動となり9か月が経ちました。主に生理検査を担当させて頂いていますが、当施設は技師人数が少ないので幅広く多くの部門の仕事ができるように日々勉強しています。また、新棟建設が決

定し、新しいエコーの機械も入るので収益を上げるためエコー検査の件数を増やすようエコーを出来る人材を育てる努力をしています。しかしながら、「教える」ということはこちら側が幅広い知識を持ち伝えるのはもちろんのこと、且つ相手が理解できるようにしなければならぬので、今更ながら難しさを感じております。

話は変わりますが、昨年の出来事という私事ですが、ピロリ菌の除菌をしました。5～6年前に呼気テストを行う機会があって陽性と分かっていましたが、それからずっと放置したままでした。最近、胃のむかつきが続き続いた時期があり、除菌しようと決めました。といってもまだ本紙原稿作成時点では確認の呼気テストを行ってないので完全に除菌できているかは分かりませんが・・・今まではまったく気を使っていませんでしたが、これからは年齢的にも健康(食事とか)に気を使わなければいけないのかなと思いました。皆さんも少し気になったら呼気テストをやってみたらいかがでしょうか。意外に陽性かもしれませんよ。ということで、今年の抱負としては「自己研鑽と健康管理」を目標に過ごしたいと思えます。

最後に会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

国立国際医療研究センター国府台病院・若 林 僚



国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。

私は平成24年4月に国立がん研究センター中央病院の非常勤職員として採用され輸血検査を担当、平成25年4月からは国府台病院正職員として採用となり病理検査を担当しています。

昨年を振り返って見ると採用当初は正職員採用となったことで仕事に対する責任感をとても強く感じていたのが毎日緊張の連続でした。病理検査、夜間緊急検査当番など未経験のことばかりでしたが先輩方にとっても優しくご指導していただき、今ではだいぶ業務をこなせるようになりました。しかし、技術、知識面ではまだまだ足りない点が多く勉強不足を痛感しており、1日でも早く1人前の技師になれるように頑張っていきたいと思っています。

関信支部や千葉地区会の研修会に参加して、違う施設の技師間の交流が盛んに行われていることに驚きと同時に恵まれた環境にあると感じています。

2年目となる今年は学会や研修会等に積極的に参加して技術、知識の習得に努める一方、細胞診の勉強にも力を入れていきたいと思っています。今年は細胞検査士の認定資格取得が最大の目標です。国府台病院は先輩方が部下の指導にとっても熱心で勉強しやすい環境にあります。このようなチャンスはなかなか無いと思えますので、このチャンスを生かしてスキルアップに励んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。本年もご指導、ご鞭撻の程宜しくお願ひ致します。

NHO横浜医療センター ……松 島 麻衣子



明けましておめでとうございます。
国臨協関信支部会員の皆様には、健やかに新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

平成23年4月に横浜医療センターに採用となり、今年で3年目を迎えます。以前までは、非常勤職員として2年間神奈川病院で生理検査を担当させていただきました。

横浜医療センターでも1年弱生理検査を担当させていただき、現在は、一般検査と免疫検査を担当しています。臨床検査技師の免許を取得して早5年が経ちましたが、日常業務をこなすことに精一杯で本来の臨床検査技師としての役割が果たせていない自分がいます。特に昨年は、生理検査から検体検査へのローテーションがあったため、知識・技術ともに何もない状態で検体業務に入ることになりました。毎日の業務に追われ勉強会等に参加することができなかったため、今年は、勉強会や研修会等に積極的に参加し、知識・技術のスキルアップに取り組んでいきたいと思っています。

また、趣味であるK-POPとドラクエ10の普及活動も積極的に行い、検査科内を明るく盛り上げていけたらと思います。

最後になりましたが、国臨協関信支部会員の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

NHO西新潟中央病院 ……渡 辺 靖



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、昨年4月より西新潟中央病院にて副臨床検査技師長の職を務めさせて頂いております。現職に就き、あっという間に9ヶ月が過ぎたと言うのが正直な感想です。この間、業務改善（電子カルテ・検査システムの改善、

不採算検査項目の外注化、超過勤務削減・業務の個人集中化は正のための勤務形態変更など）ならび他部署との折衝・調整に励んで参りました。業務改善は、当然ながら私個人で行えるものでは無く、水島技師長ならびに検査科スタッフのご指導・ご協力があったこそ行えたものです。ここに検査科の方々に深謝致します。また、技師長協議会・臨床検査研究会へ参加し、国立病院の検査技師を取り巻く諸問題や進むべき方向性を学びました。学術関連においては、臨床検査実技技能研修2（微生物）の企画・運営に携わり、ルーチンアドバイザー（微生物）も引き続き務めさせて頂きました。研修に参加された皆様ならび質問を寄せて頂いた皆様に御礼申し上げます。

今年の抱負ですが、昨年同様、院内での業務改善を継続すると共に院内に向け、検査科の価値をアピールできればと考えています。また、キャリアパスに沿った若手技師の育成も重要な事柄だと考えております。また、今年もルーチンアドバイザーを引き続き務めさせて頂くことになり、微力ではありますが、関信管内の微生物検査スキル向上に貢献できればと考えております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



NHOまつもと医療センター松本病院 …宮 下 雅 子



国臨協関信支部の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

まつもと医療センターは松本病院と中信松本病院との組織統合で一施設二病院であり、病院間は約3kmくらい離れています。そのため、人の交流、検体の搬送等には細心の注意と情報提供や配慮が必要です。しかし、松本病院の地に新棟建設で一病院となるまであと一年余りとなりました。これまでの負担も軽減でき、業務内容も向上するであろうと期待もたかまります。今年は新棟に向けての準備も一層盛り上がりと思っています。

私にとって昨年は仕事に家庭に忙しい一年であり、体調をくずしてしまい、検査科の皆さんにはご迷惑をおかけしました。今年はさらに一つ年をとるわけですから、身体の衰えも侮れません。毎朝ラジオ体操をやるかと決心したのも三日坊主であった昨年は反省し、今年はなんとかやり遂げようと私の心の天使に誓いました。あとはいかに悪魔を追い払えるかです。また、私の干支は丙午で、気性が激しく夫の命を縮めるという迷信があります。あてはまるかどうかは別にし、普段はおとなしいのですが、意見の相違があると、ときに噴火しそうになるため、気持ちを静め、穏やかに対処できるような大人に今更ですがなれるように、無理をせず、できることを優先に、幸運の当たりくじをひけるよう精進したいと思っています。

最後になりましたが皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

国立国際医療研究センター病院 …前 島 基 志



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年のプロ野球日本シリーズで東北楽天ゴールデンイーグルスが初優勝したことは、東日本大震災により甚大な被害を被った球団地元の宮城県にとって大きな喜びであり、「復興へのはずみ」ととなりました。また、2020年には東京オリンピック・パラリンピック開催も決定し、未来に向けて日本中が一体となって飛躍できる足掛かりが出来た年でもありました。

我々臨床検査技師を取巻く環境では、国臨協より発行され検査について分り易く書かれた「なるほどザ検査ミニ知識」や、日臨技より創刊された広報誌「季刊誌 Pipette」など、臨床検査と技師の仕事についてより多くの人が知る機会が増え、社会から『開かれた検査室』が求められていると感じる一方、今以上に臨床検査の質の向上と質の明確化の必要性があると思われまます。質の向上は、日々の勉強や各種学会への参加発表が大切であり、質の明確化には第三者機関による認定があります。医療の質を担保する認定は、日本医療機能評価機構による病院機能評価、日本適合性認定協会による組織のマネジメントシステムに特化したISO9001および臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項を提供する国際規格ISO15189、米国病理学会による国際臨床検査成績評価プログラムであるCAP、等が挙げられます。当センターにおいても、患者安全、感染管理、医療の質などに対しての国際的医療機能評価であるJCI認証取得に向けた勉強会が始まっています。本年4月に退官される宮崎技師長からの教えを生かし、3年後の受審認定取得を目指し頑張りたいと思っています。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、本年もご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会代表者会議議事録(要旨)

日 時：平成25年9月7日（土）11：45～12：45

場 所：国立国際医療研究センター 国際医療協力局 4F 第1会議室

出席者

【施設代表者】

日 吾 雅宜（NHO埼玉病院）
 渡邊 孝浩（NHO西埼玉中央病院）
 工藤 元記（NHO東埼玉病院）
 山崎 正明（NHO東京医療センター）
 守屋 任（NHO災害医療センター）
 久高 果市（NHO東京病院）
 堀内 久実（NHO村山医療センター）
 石川 淳（国立療養所多磨全生園）
 小松崎正博（国立成育医療研究センター）
 前島 基志（国立国際医療研究センター病院）
 児玉 徳志（国立精神・神経医療研究センター病院）
 川村 公彦（国立がん研究センター中央病院）
 羽深 信哉（NHO甲府病院）
 ※国立障害者リハビリテーションセンター病院は欠席

【東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会】

部会長 内野 厳治（東京地区：NHO村山医療センター）
 部 員 小関 満（東京地区：国立成育医療研究センター）
 部 員 石井 幸雄（埼玉地区：NHO東埼玉病院）
 部 員 南雲 功（山梨地区：NHO甲府病院）
 部 員 金子 司（関信支部：NHO栃木医療センター）
 （敬称略）

1. 報告事項

- 1) 東京・埼玉・山梨地区会設置目的
 東京・埼玉・山梨地区に地区会がなく地区内での施設の交流がない。また、専門職の情報提供の機会もないため、他地区会会員より専門職からの情報に乏しい。
- 2) 設置に向けての活動経過報告
 - (1) 平成24年6月30日
 国臨協関信支部は東京・埼玉・山梨地区技師長会に「東京・埼玉・山梨地区会のあり方についてのWG」立ち上げを提案。
 会は了承、「東京・埼玉・山梨地区会のあり方についてのWG」が立ち上がる。
 - (2) 平成24年9月15日
 「第1回東京・埼玉・山梨地区会のあり方についてのWG」を開催、名称を「東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会」とし、今後の活動等を協議。
 - (3) 平成25年4月20日
 国臨協関信支部定期総会にて活動経過を報告。
 - (4) 平成25年6月8日
 東京・埼玉・山梨地区技師長会総会にて意見交換。
 学術講演後に関信支部の東京・埼玉・山梨地区会員に報告、提案が了承。
 - (5) 平成25年9月7日
 「東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会代表者会議」を開催し意見交換。

2. 討議事項

- 1) 地区会運営について
 - (1) 地区会活動開始時期について
 ・平成26年度より活動開始とする。
 （平成25年6月8日の承認事項）
 - (2) 地区会区割りについて
 ・埼玉地区は県単位、4施設で埼玉地区会として活動する。
 （平成25年6月8日の承認事項）
 ・山梨地区は1施設のため、東京地区会に入り活動する。
 （平成25年6月8日の承認事項）
 ・東京地区は施設・会員数が多いため1地区または

2地区分割を再検討した。

東京地区を1つとする案は、会員数が200名となるため、研修会、総会は会場が制約され大規模施設でしか開催できない、懇親会の会場確保についても同様、地区会としての活動が制限される可能性がある、等の意見があった。その他、3地区会分割の意見も出された。

・協議の結果、東京地区会は2地区会に分割して活動することとした。

- 2) 東京地区会（2地区会）の施設の割り振りについて

・2地区会へのそれぞれの施設の割り振りについては、概ね均等なNC施設数、NHO施設、会員数で分割する1案、東西で分割する2案を協議した。2案はNC施設の偏りが有ることからNC、NHO施設の均等な割り振りの1案が情報交換できる等の意見から1案を採択した。

以上を踏まえ、東京地区会の施設の割り振りは以下のとおり決定した。

地区会区割り及び東京地区会の施設の割り振り

埼玉地区会(4施設 41名)
NHO埼玉病院 NHO西埼玉中央病院 NHO東埼玉病院 国立障害者リハビリテーション病院
東京地区会（仮称）（5施設 99名）
NHO災害医療センター NHO東京病院 国立がん研究センター中央病院 国立精神・神経医療研究センター病院 国立療養所多磨全生園
東京・山梨地区会（仮称）（5施設 98名）
NHO東京医療センター NHO村山医療センター NHO甲府病院 国立国際医療研究センター病院 国立成育医療研究センター

- 3) 今後の活動について

・今後は、地区会毎に地区会理事を各施設から1名選出（主任、技師等）、規約、活動計画等を作成し、平成26年度の活動開始に向け準備を進める。
 ・地区会規約は、配布資料（関信支部各地区会の規約）を参考に地区会単位で作成する。
 ・地区会会長は、来年1月開催予定の国臨協関信支部地区代表者会議に出席する。
 ・地区会会長は、「東京・埼玉・山梨地区会設置部会」が依頼する。
 ・今後の活動費用は、国臨協関信支部で予算計上しているが、可能な限り経費がかからないようメール等を活用して活動を進める。

議事録作成 内野 厳治

追記 東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会より地区会会長を依頼し、3地区会の会長が決定いたしました。

・埼玉地区会（仮称）
 会長 日 吾 雅宜（NHO埼玉病院）
 ・東京地区会（仮称）
 会長 竹下 昌利（国立精神・神経医療研究センター病院）
 ・東京・山梨地区会（仮称）
 会長 南雲 功（NHO甲府病院）

平成25年度「赤城人財育成・交流研修会」に参加して

NHO高崎総合医療センター 小 林 良 太

私は平成25年9月30日から1週間、本研修に参加してきました。私自身、交際はあまり得意ではなく、楽しみ半分、不安や緊張感半分で研修に臨みましたが、終わってみれば、赤城の豊かな自然や多くの仲間、人との出会いが、自分を見つめる契機となり、貴重な時間を与えてくれました。

他職種の方と交流を深められたことは、研修の目的でもありましたが、最大の成果となりました。5日間の活動を通して一体感が生まれ、協力しあい、笑いあう中で、互いに信頼できる仲間となりました。とりわけ、同じ班になった5名との出会いは忘れられないものとなりました。手を取り、励まし合いながら山頂を目指した登山、皆で頑張った結果、準優勝できたバドミントンの試合などを通して、班の全員が、最優秀班に選ばれる自信を持っていたほど結束を強めました。

今回の研修で、気持ち新たに仕事に臨む決意と、自分の弱さとなっていた部分を乗り越えていく確かなヒントを得たように思います。一緒になった班で行動したときと同様に、職場に戻っても連携し、協調しながら一つのチームとして取り組んでいく必要があります。

また、他職種の方との関わりも大事にしていきたいと思います。

また、講義で患者の立場に立つとはどういうことかについて考える機会がありました。患者に関心を持つて理解しようと努めた上で、自分に何が出来るのかを考えることが大事であることを学びました。たとえどんなに忙しくとも、心の片隅にその点を考える余裕を持ち合わせておきたいと思います。最後に、5日間素晴らしい時間を共有してくれた同期の受講生、引率のお二人ほか関係者の皆様に御礼申し上げます。



ISO15189認定を取得して

国立がん研究センター東病院 吉 川 英 一

国立がん研究センター東病院病理・臨床検査科は、平成25年11月13日に日本適合性認定協会（JAB）の認定委員会にて認定申請が承認されました。

平成23年7月22日、当センターが、厚生労働省が公募した「早期・探索的臨床試験拠点整備事業」の拠点の1つとして選定されたことによって、検査科においては、検査の質が国際的に通用する第三者機関による評価を望まれるようになりました。そのため、平成24年度の検査科の目標としてISO15189認定の取得を掲げ、病院幹部への説明会や部門内での勉強会等を実施してまいりました。本年1月になり、ようやく施設の全面協力を得ることができ本格的な準備に入りました。しかし今年度は、病院の電子カルテや各検査室の部門システム更新、及び検体検査のランチ化が決定しており、過密なスケジュールとなりました。

ISO15189認定取得において、大きな問題となったの

は検査室における管理体制が挙げられます。当センターは、病院検査室と委託検査室の2つから構成されており、ISO15189では管理体制の一元化が強調されています。この2つの検査室を如何にまとめていくのかが重要課題となり、そのために、指示命令系統の明確化、及びお互いの情報共有化などコミュニケーションを図るため、各検査室リーダーミーティングや全員参加の会議・勉強会などを実施し、検査室の壁を作らないよう心掛けました。通常、準備期間として1年から2年を要すると言われていたのですが、実質の準備期間が6か月という強硬スケジュールが幸いしたのか、スタッフ全員が一丸となり毎日遅くまで書類作成や見直しの繰り返しを行い必死で取り組んだ結果だと思っています。

この度の認定の取得に際し、各作業行程を通じて精度管理・品質管理に対する意識並びに医療安全・安全衛生に対する意識、及び各検査室における担当業務の重要性に関して、検査科全スタッフの認識の向上が図られたことが最も大きな収穫だと思っています。

現段階ではまだまだ不十分ではありますが、各々が自主的に向上して行く環境に整備され、今後さらに、PDCAサイクルを生かし継続的にQMSの機能維持・向上を図ることにより、完成度の高い検査室に生まれ変わるのではないかと考えています。

最後に、ISO15189の規格は認定取得のみならず、準備した検査室構築を行うことにより、検査室の運営と管理にとって大変有意義のあるものだと思います。この度の経験が、少しでも国臨協会員のみなさまのお役に立てるよう情報提供など努めたいと考えております。今後もよろしくお願いいたします。



第3回国臨協関信支部主催研修会 (共催：関信支部長野地区会)に参加して



NHO信州上田医療センター
熊 谷 豊

平成25年10月12日(土)、大宮ソニックスティビルに於いて、第3回国臨協関信支部主催研修会(長野地区会との共催)が開催されました。今回は「うつ病を知ろう」をテーマにNHO小諸高原病院、精神科副家知則先生と臨床心理士長井史紀先生の講演を拝聴いたしました。

まず、「うつ病の理解と周囲の接し方」～うつと向き合う3つのコミュニケーションスキル～として副家知則先生より講演がありました。うつ病を取り巻く環境の変化や、うつとはどういう状態か、うつになる原因と治療の話のあと、うつに向き合う3つのコミュニケーションスキルを学びました。

3つのスキルとは、①開かれた質問で心を開き②相手の感情を捉え、話を言い換え共感を得る③一緒に答えを探す指示的関係への移行をし、ソクラテスの問答により心理的視野を広げて答えを探していく。そして、困難を抱えている『人』を支え、次にその人が持っている『問題』への介入を進めていくなどの対処法を学

びました。

続いて「自分のうつ傾向を見てみよう」として、長井史紀先生より自分はどの様に考えがちなのか、自分の認知の癖を具体例から自己採点し、うつの傾向を評価するなど自分の知識の癖について講演がありました。

今回の研修では、5大疾患に精神疾患が追加されたことや、うつ病の診断基準、経過や症状と身体症状を学ぶことができ、うつに対する理解が深まりました。うつ病患者数が20人に1人と身近な病である現代で、うつに向き合う方法を学ぶことが出来てとても勉強になりました。

最後になりましたが、ご多忙の中、当研修会を企画・開催して下さいました国臨協関信支部役員の皆様ならびにご講演頂きました先生方に深く感謝するとともに厚く御礼を申し上げます。



第32回国臨協関信支部 神奈川地区会定期総会・研修会を終えて



NHO神奈川病院
齊 藤 美穂子

平成25年11月2日（土）神奈川病院において第32回国臨協関信支部定期総会・研修会が行われました。当初10月26日（土）を予定しておりましたが、台風27号関東直撃か（？）

の台風の進路に翻弄され川畑会長の苦渋のご決断にて総会直前2日前に1週間の延期が決定され11月2日となった経緯がございます。急な変更にも関わらず地区会員34名の参加と、来賓として上條専門職、関信支部後藤事務局長、瀬戸理事にご臨席を賜りました。

研修会は、国臨協会報誌77号でもご執筆いただきましたオックスフォード・イムノテック株式会社中尾倫孝先生をお迎えして「結核菌特異的インターフェロン γ 遊離試験について」ご講演を頂きました。IGRAとは結核菌に特異的な抗原（ESAT-6とCFP-10）を用いてIFN- γ 産生量を測定し感染を診断する検査方法でありBCGワクチンとの交差反応がなく、感度・特異性に優れている検査法でありT-spotにおいては検体中の顆粒球を除去することで最長32時間まで測定が可能となった事など検査工程を含め大変詳しく説明して頂きました。ただ現在では発病と感染の識別が出来ないという点について他の検査材料（胸水等）を用いた研究も進めら

れているという興味深いお話もありました。T-spot検査について会員から活発な質問があり各施設で注目されている検査法であることが伺えました。次に上條専門職より「連絡・指導」としてNHOの概要から始まり、人事関連（人事交流、定年退職後の再任用、新採用者の登録試験、主任候補者選考試験についてなど）、試薬共同入札、病院間医療安全相互チェックや人材育成など非常に多くの内容についてお話頂きました。特に人材育成に関しては個のスキルアップはもちろんの事リーダーシップの取れる人材の育成が大きな課題である、新人教育においては職場内での教育が重要であり各施設にて、大切に育てて欲しいとのお話が印象的でした。また検査技師がチーム医療の中での着目度が高まっている事。その中で、病状に合わせた総合的な考えの出来る技師が求められているとのお話に身の引き締まる思いです。

定期総会は川畑会長の挨拶に始まり、来賓の後藤事務局長よりご挨拶及び関信支部活動報告が行われました。引き続き議長に選出された国仲副技師長進行のもと平成25年度経過報告、会計報告、平成26年度事業方針案、予算案が審議され会員の承認をもって無事に終了いたしました。総会終了後には場所を秦野駅前の居酒屋に移し懇親会が行われ、会員間の親睦が深まる楽しい一時を過ごすことができました。最後に会開催にあたり、ご尽力頂きました地区役員の皆様、お忙しい中ご講演してくださった中野先生、上條専門職、ご出席頂きました後藤事務局長、瀬戸理事並びに会場準備に協力してくれた神奈川病院検査科職員に感謝申し上げます。

平成26年度関信支部神奈川地区会役員

会 長 樋口 祐子（NHO久里浜医療センター）
事務局長 山崎 剛（NHO相模原病院）
理 事 近藤 正（NHO箱根病院）
理 事 国仲 伸男（NHO横浜医療センター）
理 事 齊藤美穂子（NHO神奈川病院）



第36回国臨協関信支部 栃木地区会定期総会・研修会を終えて

NHO宇都宮病院 古 谷 能 祥

平成25年11月16日（土）、栃木県総合文化センター会議室にて、第36回国臨協関信支部栃木地区会定期総会および研修会が開催されました。当日は、24名の地区会員とともに、国立病院機構関東信越ブロック事務所統括部医療課より上條臨床検査専門職、国臨協関信支部から 浅里支部長、小池理事にご臨席を賜り会が行われました。

総会は、議長に平原副技師長（宇都宮）、書記には古谷主任（宇都宮）、福澤技師（栃木医療）が選出され、平成24年度経過報告、議案審議として平成25年度事業方針案、予算案が審議され、賛成多数により承認され、総会は無事に終了しました。

学術講演はバイオ・ラッドラボラトリーズ(株)診断事業部、柿沼幸利先生より「ゲルカラム法による輸血検査について」講演をいただきました。輸血検査は、臨床検査技師、誰もが携わる重要な検査で精度管理することは重要なことです。今回は、ゲルカラム法に関して、輸血検査の歴史をふまえて詳しく講義を受けました。特に、従来（試験管法）の限界と内在するリスクに関しては、とても興味を持つ内容でした。

続いて、上條専門職による「臨床検査部門の現状と今後について」といったテーマのもと、主任候補者選考試験、新採用者の任用現状のほか、各種認定試験取得者の現状等の講演でした。認定資格は、各自のスキルを高めると共に、近年は、輸血検査、ICT、糖尿病指導など、病院として認定資格者の必要性が論じられています。それぞれの分野で臨床検査技師が活躍できる場があることは、これから取り組まなくてはならない課題であるとともに、やりがいであると考えます。



研修会終了後は、栃木県庁の最上階にある「和食ダイニング十五夜」にて意見交換会が開催され、宇都宮市街を一望に見渡せる夜景の中で会員相互の親睦が深められた会となりました。栃木地区は2施設から構成される小規模な地区会です。しかし、病院間は近く今後もお互いの施設が切磋琢磨出来る環境を大切にして行きたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中ご臨席いただいた、上條専門職、浅里支部長、小池理事には心よりお礼申し上げます。

平成25年度関信支部栃木地区会役員

会 長：稲葉 孝（NHO栃木医療センター）
 事務局長：平原 博美（NHO宇都宮病院）
 理 事：星 功晴（NHO栃木医療センター）
 ：古川 政雄（NHO宇都宮病院）
 会計監査：高橋 邦夫（NHO栃木医療センター）
 ：佐藤志律江（NHO宇都宮病院）



国臨協関信支部 今後の日程

第5回国臨協関信支部主催研修会

日 時：平成26年 1 月25日（土） 12:30～（受付開始12:00～）
 場 所：国立国際医療研究センター 研究所会議室A,B 中会議室
 内 容：超音波検査研修会 基礎・臨床（腹部領域・心臓領域）
 講 師：基礎分野 前 島 基 志 主任技師（国立国際医療研究センター病院）
 循環器分野 植 松 明 和 主任技師（国立国際医療研究センター病院）
 腹 部 分 野 宮 越 基 主任技師（国立がん研究センター中央病院）

国臨協関信支部主催症例検討会

日 時：平成26年 2 月15日（土） 13:30～（受付開始13:00～）
 場 所：国立国際医療研究センター 国際医療協力局 5 階大会議室
 担当施設：国立がん研究センター中央病院

平成25年度退職会員を囲む合同交流会のお知らせ

日 時：平成26年4月19日（土）
 場 所：アルカディア市ヶ谷

同日は、同会館にて関信支部定期総会および研修会を開催する予定です。詳細につきましては後日お知らせいたします。

平成26年度国臨協関信支部 役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 樋 口 久 晃
 役員推薦委員 内 野 徹 治
 役員推薦委員 長 田 裕 次

平成26年4月の国臨協関信支部定期総会において役員の改選を行います。

国臨協関信支部役員推薦規程第3条により役員を公募いたします。候補者は下記の要領にて委員会へ郵送またはメールにて役員応募届出用紙を提出してください。尚、届出用紙（様式3）を関信支部ホームページよりダウンロードして下さい。

記

1. 施設名・氏名・年齢・性別
2. 職務歴
3. 会員歴
4. 国臨協関係役員歴
5. 抱負（簡単に）

締め切り 平成26年3月7日（金）

提出先 〒257-8585
 神奈川県秦野市落合666番地1
 NHO神奈川病院 研究検査科 樋口 久晃
 e-mail: higuchi@kanagawa.hosp.go.jp

人 事 異 動

【平成25年 7 月31日付 退 職 者】

氏 名	旧施設名	旧職名
熊 澤 寛 子	国立がん研究センター中央病院	主 任 技 師
川 名 美由紀	東 京 医 療 セ ン タ ー	技 師

【平成25年 9 月30日付 退 職 者】

氏 名	旧施設名	旧職名
高 橋 理 誉	東 京 医 療 セ ン タ ー	技 師

名称変更【平成25年10月1日】

独立行政法人国立病院機構 さいがた病院
 →(新名称)独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター

地域医療再生計画

独立行政法人国立病院機構 西群馬病院と渋川市立渋川総合病院との再編により、渋川医療センター（仮称）が平成27年度の開院に向けて準備中。

編 集 後 記

明けましておめでとうございます。今年の表紙の写真は、国立国際医療研究センター病院中央検査部技師長宮崎澄夫様より投稿を頂きました。"前進あるのみ"の様な力強い作品ですね。写真を見ているだけで、はりきって今年一年を始められそうです。さて、東京オリンピックの開催まで6年を切りました。今年からオリンピック施設の建設が始まるそうで、景気回復になればと期待しています。とりあえず、皆様には今年開催される横浜国立病院総合医学会の参加ご協力をお願いいたします。是非、皆様のお力で盛り上げましょう！ 広報部 小池 容子

覚えよう 身につけよう 検査技術!

血液培養検査

国立がん研究センター中央病院 病理・臨床検査科 荘 司 路

血液培養検査は、血流感染の起因菌を検出するうえで最も重要な検査として位置づけられており、細菌が検出された場合その臨床的意義は大きく、検査室からの血液培養陽性報告は、患者の治療方針に直接影響を及ぼす可能性がある。今回、微生物を担当する技師として「血液培養検査」について再度確認してみよう。

①血液培養検査の実施

血液培養検査は、敗血症や菌血症、感染性心内膜炎が疑われる場合や不明熱の場合に実施される。原則として全身性炎症反応症候群（SIRS）診断基準に準ずる。

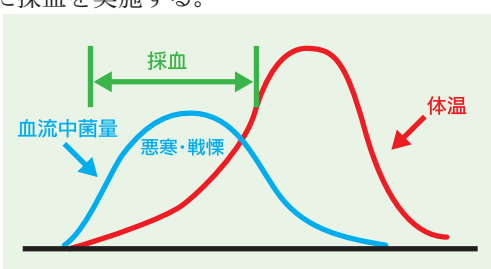
（主な臨床症状）

- ・ 38℃以上の発熱、または36℃以下の低体温
- ・ 白血球増加、特に未熟なまたは桿状核球への左方移動を伴う場合
(10,000/ μ L以上の白血球の総末梢白血球数)
- ・ 顆粒球減少 (1,000/ μ L未満の成熟した多核白血球)
- ・ 心拍数が90/分以上
- ・ 呼吸数20/分以上またはPaCO₂が32mmHg以下
- ・ ショック、悪寒、硬直
- ・ 重症局所感染（髄膜炎、心内膜炎、肺炎、腎盂腎炎、腹腔内膿瘍等）

②採血のタイミング

採血は、抗菌薬投与前に実施するのが原則であるが、やむなく抗菌薬投与が開始されている患者では、1～3日中止後に実施する。抗菌薬投与が中止できない場合は、血液中の抗菌薬濃度が最も低い時期（次回、抗菌薬投与前）に採血を実施する。

採血のタイミングは、血流中の細菌量が最も多いとされる、悪寒・戦慄が出現時や発熱の初期が最適である。



③採取ボトルのセット数

血液培養検査のための採血は、1セット採取ごとに20mL（好気ボトルに10mL、嫌気ボトルに10mL）採取部位を変えて2セット以上採取することが推奨されている。血液培養の複数セット採取は、重篤な感染症の起因菌検出の感度をあげる。また培養陽性時の皮膚常在菌などのコンタミネーションが考えられる菌種が分離された場合の解釈にも必須である。微生物を担当する技師は、自施設の複数セット採取状況を把握し、複数セット採取が実施されていない診療科には、複数セット採取を働き掛ける必要がある。真の感染症では、別々の部位から採取した複数の血液培養セットが陽性となる。一方、1セットまたは2本のうち1本のみから皮膚常在菌や環境由来菌が検出された場合、コンタミネーションと判断されることが多い。しかし、*Candida spp.*、*S. aureus*、*S. pneumoniae*、*P. aeruginosa*などは、1セットのみの陽性であっても血流感染の真の起因菌として早急な治療開始が必要である。

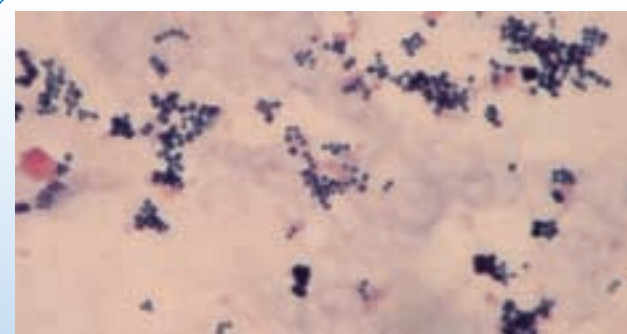
④陽性時の対応

血液培養陽性の結果は、患者の治療方針の決定にすぐに影響を及ぼす可能性があるため、迅速な対応を必要とする。陽性時のグラム染色結果の形態から推測される菌種、陽性ボトルの本数などの確かな情報を担当医師へ報告する。また、血液培養と同時期に培養検査を実施している他の検体（カテーテル、随時尿、膿瘍等）からの検出菌についても報告するとよい。

（血液培養ボトル陽性時の肉眼的所見と推定される菌）

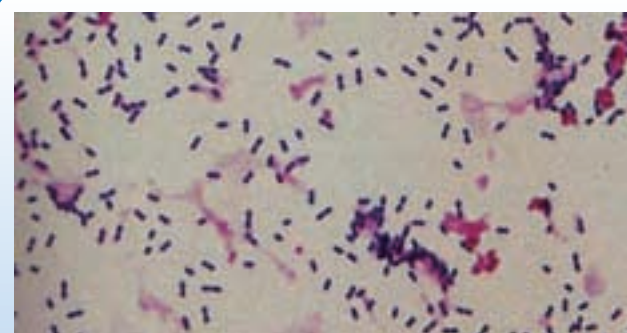
肉眼的所見	推 定 菌
溶血	<i>Streptococcus</i> 属 <i>Staphylococcus</i> 属 <i>Listeria</i> 属 <i>Clostridium</i> 属 <i>Bacillus</i> 属
混濁	グラム陰性桿菌 <i>Staphylococcus</i> 属 <i>Bacteroides</i> 属
ガス産生	グラム陰性桿菌 嫌気性菌
菌膜形成	<i>Pseudomonas</i> 属 <i>Bacillus</i> 属 酵母様真菌
凝固	<i>Staphylococcus aureus</i>
菌塊	<i>Streptococcus</i> 属 <i>Staphylococcus</i> 属
纖毛状の浮遊物	糸状菌

（微生物検査ナビより引用）



（陽性時の中間報告の一例）

〇〇日採取の血液培養2セットからグラム陽性球菌が、検出されました。染色形態から *Staphylococcus* 属が疑われます。同日に提出されたカテーテル培養からは *S. epidermidis* が検出されています。



（陽性時の中間報告の一例）

〇〇日採取の血液培養からグラム陽性双球菌が、検出されました。染色形態から肺炎球菌が疑われます。採尿が可能な患者様であれば、『尿中肺炎球菌抗原検査』の実施をお薦めします。

同定・薬剤感受性結果確定後は、担当医や感染症専門医、ICT等と、患者の状態、使用抗菌薬についてディスカッションすることが、微生物担当技師のスキルアップに繋がると思われる。

次回へ続く

血液培養陽性時の「起因菌」「コンタミネーション」の判定について再度確認してみよう。

参考文献

- 1) 松本哲哉, 満田年宏 訳: CUMTECH 血液培養検査ガイドライン、医師薬出版、東京、2007
- 2) 満田年宏 血液培養 血流感染症診断のための重要な検査 シスメックス・バイオメリュー株式会社
- 3) 堀井俊博, 大塚和久 微生物検査ナビ 栄研化学株式会社